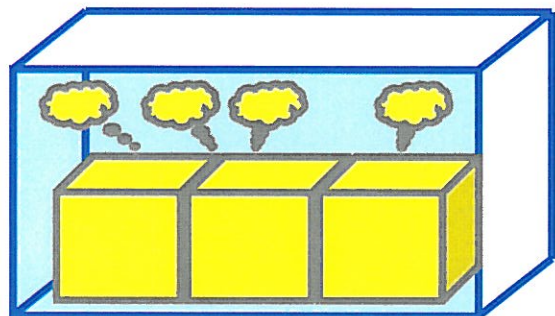
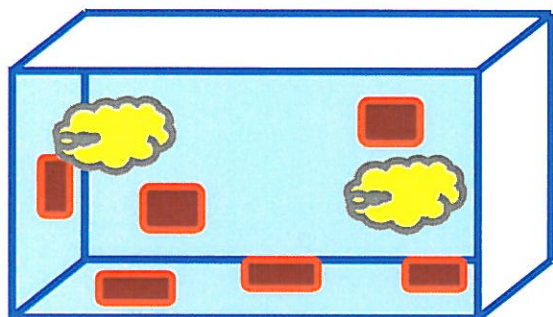


# 臭気損発生メカニズム



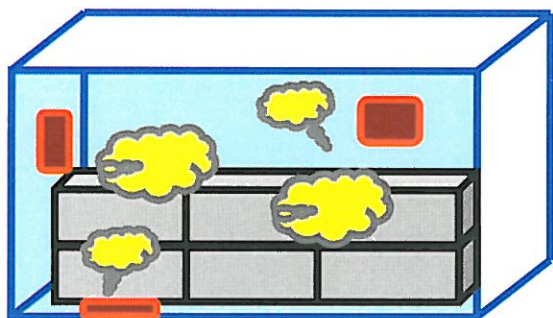
## 1. 臭気貨物から臭気が発散

輸送中、温度・湿度の上昇とともに臭気が発散。  
また、粉体貨物、包装が不備なものは積卸作業や輸送振動によって、粉や液体、くずが室内に飛散。



## 2. コンテナ内に臭気が残る

貨物取降し後も室内に臭気が浮遊（密閉性が高く消え難い）。  
飛散した臭気物質や臭気が、内張り板やゴムパッキンの表面や内側に染み込む。同様に、床面や特にラッシングフックの穴に臭気物質がたまり、臭気を発散し続ける。



## 3. 一般貨物に臭気が付着する

その「臭気コンテナ」を一般貨物用に使用すると、輸送中に残っていた臭気が一般貨物に付着する。  
輸送中の温湿度上昇に伴い、床面、壁面、ゴムパッキン等に潜んでいた臭気が浮遊化し、貨物の段ボールやプラ容器を通過し商品まで浸透する。